

## ■ロシア：ロシア政府、2030年までのエネルギー戦略を基本了承

エネルギー省が作成した2030年までのロシアのエネルギー戦略の草案が2009年8月27日の閣議で基本了承された。エネルギー相は、閣議で出された意見をもとに2週間内に草案に修正を加え、再度閣議に提出する。草案を報告したシマトコ・エネルギー相によると、エネルギー戦略はエネルギー部門の2030年までの発展の基本路線を定めたもので、重要な施策の内容や実施期間、また投資資金などのその後の調整は、より詳細な計画やエネルギー部門の全体的なモニタリングに基づき行われる。エネルギー戦略の基本目標は、経済の持続可能な発展、国民の生活の質の向上および対外政策面でのロシアの地位の強化のために、天然資源およびエネルギー部門の潜在力の最も効率的な利用を目指すというもの。以前のような数値の羅列はない。

21年の期間は3段階に分けられ、2013-2015年までの第1段階は、経済危機の影響を払拭する期間とされる。その間は政府の役割も強化され、エネルギービジネスへの参加者、投資家の役割も担うことになる。2020-2022年に終了する第2段階では、大規模な開発プロジェクトや設備更新計画が実施されるとされている。この段階では、対外環境が安定すれば、政府の直接参加は次第に低下する。第3段階では、エネルギー部門の在来型エネルギー資源の高効率利用、将来の非燃料型エネルギー体系への移行のための設備の準備が行われる。エネルギー部門への投資総額は60兆ルーブル（約180兆円）とされている。